

【Observatory Days 2019 参加報告】

氏名：宮本太志朗

所属：SSE 研究室（修士 1 年）

滞在期間：平成 31 年 1 月 6 日～1 月 12 日

滞在先：Sodankylä Geophysical Observatory

滞在国内：フィンランド

この度、私は 2019 年 1 月 9 日から 2019 年 1 月 11 日にフィンランドの Sodankylä で開催された、Observatory Days 2019 に参加し、私が現在行っている研究の口頭発表を行いました。

Observatory Days は今回で 10 回目の開催であり、北欧の研究者を中心にそれぞれの電離圏・磁気圏の研究発表とこれからの装置の運用やそれをどのように研究に繋げていくかについての議論が行われました。

今回、私は”Variations of CNA(cosmic noise absorption) by EEP(energetic electron precipitation) and changes of the auroral morphology”というタイトルで、口頭発表を行いました。高エネルギー電子が地球に降り込むことによる CNA という指標の変化とそれに伴うオーロラの形態の変化についての研究です。

私にとって初の学会発表であり、英語での発表ということもあり、準備がとても大変でしたがとてもいい経験となりました。

さらに、今回の出張では学会の開催日より前に現地へ赴き、私が研究で使用している Sodankylä に設置されている EMCCD カメラの設置場所に訪問し、カメラの動作原理、動作環境などの知識を深めました。

また、私の研究で使用する CNA のデータを提供してくれている技術者と直接話す機会を設けていただきました。そこでは CNA の値の変動を観測するための装置であるリオメータの原理についてとても詳しく教えていただきました。

約 5 日間の滞在中で海外の人と話す機会が何度もありましたが、話を聞くことができてもなかなか自分の意見を英語で伝えることがとても難しく、自分の英語力不足を実感させられました。とても悔しかったのでこれからの英語学習のモチベーションとなりました。

最後に、今回の海外出張は研究発表だけでなく海外の研究者とコミュニケーションをとる機会や自分の使用する観測機器の知識を深める機会となり、とても貴重な経験

となりました。支援して頂いた宇宙地球環境研究所国際連携研究センター 若手海外派遣支援プログラムの関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

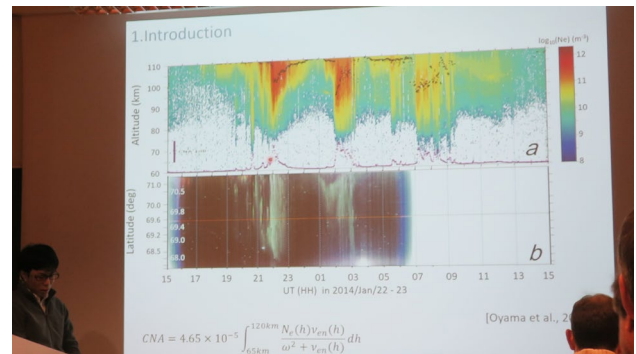


図 口頭発表

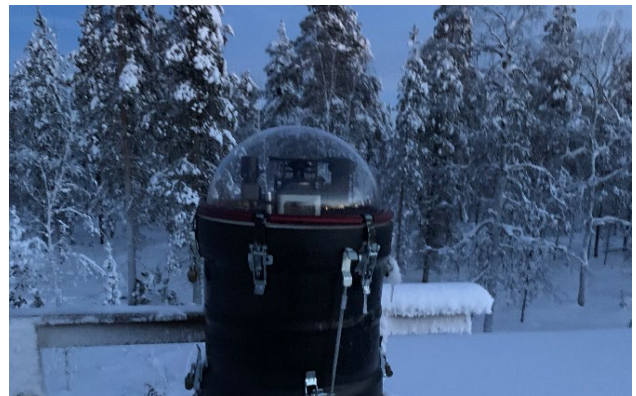


図 EMCCD カメラ

<指導教員>

大山伸一郎